

## 第10次上川町総合計画策定委員会（第3回）

日時：平成29年11月15日（水）18：30～21：30

場所：上川町役場 大会議室

### 議事抄録（発言順）

#### 報 告

- (事務局) 第2回策定委員会及びパブリックコメント(意見募集)の結果について報告
- (委員) パブリックコメントでコメントするのはなかなか難しいことだと思う。パブコメで町民はこれと同じ資料をみるのか。どれに的を絞るか難しい。ホームページを開く人がどれだけいるのかわからないので、意見0件イコール意見がないというわけではない。もしパブコメするなら、もう少し内容を絞ることも考えてほしい。
- (事務局) まちづくり懇談会では、概要版を使って説明している。しかし懇談会も十分であるとは考えていないので、次回からは概要版の提示も考えたい。
- (委員) まちづくり懇談会でも意見はなかったのか。
- (事務局) 直接的に策定に関わる部分では、高齢者施設のこれからのあり方など福祉の面で問い合わせがあった。また、農業地区の基盤整備の問い合わせもあった。
- (事務局) まちづくり懇談会については、やりとりの記録を整理している最中である。委員には次回までに何らかの形で提示したい。

#### 議 題

##### (1)まちづくり目標（基本計画）素案について

##### 4 安全安心で住みよい環境のまちづくり

- (事務局) 資料説明
- (委員) p 1 1 2の主要事業の下から3番目「避難行動要支援者に関する情報提供」の内容について教えてほしい。別紙2で2019～とあるがなぜ2018からできないのか。
- (事務局) 事業年度はあくまで計画、財源的な問題があり遅くなる可能性もある。内容は、パソコン上で地図ソフトに、どういうところに要支援、要介護の人がいるかのデータを作成する。もちろん紙にも台帳が出力でき、災害時にどこに駆けつければよいか活用する。個人情報だが災害時には情報共有できるようになる。

- (委員) 作成時に民生委員の協力の必要性があると思うがどうか。
- (事務局) 避難の要支援者の名簿は500名くらいいて、自宅がどこにあるかを地図上に落とししていく。名簿はでき上がっており、もし民生委員の協力が必要となれば、保健福祉課を通して求めていく。
- (委員) できあがった段階で、町内会を通してもらわないと迷惑である。
- (事務局) 必要に迫られた場合はこちらから協力をお願いする。
- (委員) 地域防災計画に基づくものなのに2019からというのは理解できない。消防車の更新は予算が必要であるが、これはお金がかからない。
- (事務局) 事業計画では2019からとなっているが固定ということではない。様子をみながら早められるものは早める方針であるので理解していただきたい。
- (委員) 名簿の作成について、以前、町内会活動の中で町に提示をお願いしたことがあるが、「個人情報であるためできない。町内会が各個人の了解を得てやるならいい」と言われ、西町でマップをつくった。こうした情報収集は個人情報にひっかからないのか。
- (事務局) あくまで法律に抵触しないようにしっかり配慮して進める。
- (委員) マップ作成はかなり努力が必要だった。町内会で持っているのは西町だけではないか。マップによって社会福祉協議会の支援がスムーズにできたことがあるので、公開できるのであればぜひ公開してほしい。
- (事務局) 災害に特化していれば問題ない。西町でマップができているということであればそうした情報も頂きながら進めたい。
- (委員) p100で「親しみとうるおいのある道路づくり」とはどういう意味か。景観も関係あるのか。もう一点は、住宅で空いているところはぜひ情報を共有してほしい。何年かに1度は子どもたちが侵入することも起きている。住めない住宅は勧告などしてほしい。それからこれまでもいろいろなところで言っているが、大通りの雪対策で、大通りを運転するのが本当に億劫なので雪をなんとかしてほしい。何かが起こらないうちに、大通りが雪で満たされるのを根本的になんとかならないか。日常生活の中で非常に視界が悪い。次に何日か前に、防災スピーカーが鳴るという連絡がきているが聞こえない。将来的に人口が減少したら、家に直接連絡がくる無線システムは考えられるのか。

(事務局) 「親しみとうるおいのある道路づくり」は、日常的に通行するのに支障がなく安全に通れる道を目指してという意味。街路で植樹されているところもあるし、花いっぱい運動もあり、そういう意味でうるおいのある道路を目指したい。

(事務局) 空家対策については、p 99の基本的な考え方にある通りで、現状は空家対策協議会を、関係団体、町内会、町の7名の構成員で設置し、第1回の会議を終えたところである。今後は、空家等対策計画の素案を職員レベルで作っており、その素案の内容を協議する予定である。子どものためにも空き家の処分を速やかにとの話があったが、今にも崩れそうな空家について特定空家の認定をするかどうかということが必要になってくる。専門技術者が審査をし、最終的に協議会で判断していく。特定空家に認定されたからすぐに処分ということにはならず、所有者が処分に応じられる経済力があるのか、もしなければ町が行政代執行するのか、そうした判断をしなければならなくなる。行政代執行するには経費がかかるので一筋縄ではいかない。空家等対策計画を今年度策定し進めていきたい。また主要事業として台帳整備をあげている。ソフトウェアを購入し空家が町内のどこにあるか地図上に示す。特定空家だけでなく利活用もあり、所有者とそれを求める人のマッチングが可能であれば、売買、賃貸ということになるので、空き家を地図から落とす、所有者を変更するなど、更新情報が即座に見られるものを整備していく予定である。

災害情報伝達について、昨日、訓練があって地域を区切っているが、委員のいる新町も対象になっていた。屋外拡声器が整備できているので、市街地を含めて周辺をどうするか。昨年、台風による大雨でかなりの被害を受けた。まずは子どもから高齢者まで町民に災害に関する情報を100%に近い形で伝達するためにどういった方法が取れるのか、一方で経費がどの程度かかるのか、手法と経費のバランスを考えるべく、業者に調査を依頼している。家庭にダイレクトに情報が届くものも考えられるのではという話があったが、個別受信機の手法も考え合わせながら進めていく段階である。

(事務局) まちの中の拡声器はかみんぐホームにしかなく、委員の方には向いていない。基本的にはまちの中には無いのでこれから整備していく。

(事務局) 大通りの除雪は、北海道が管理の道道なので基本的に北海道で委託して除雪を行っている。町道より広い規格で雪の量も多く間口もやっているので、どうしても歩道に高く積み上がってしまう。町としては道に要請することしかできない。排雪が年前と明けてからの2回あるが、回数を増やしてもらうのは厳しいと思う。先日、周辺の町村で話があったが、比布ではあまり除雪しない圧雪の状態で走りづらいということもあった。その件では上川はまだ除雪がされている。愛別では商店街と町が負担して排雪を1回多くするという方策を練っている。

(委員) 高校のかどのところは小学生、高校生の通学路であるがすごく危険。北海道で

きないのであれば、せめて町で交差点を町でできないか。

(事務局) 除雪車が走る時間帯にもよる。確認しながら検討したい。

(委員) 今の話は同感で、道道だからできないではなく、なんらかの対策をしてほしい。高校の前もそうだが、小学校の前もすごく危ない。小学校の前の住宅の人たちが小学校に雪を押しつけているので余計、山積みになっている。

(事務局) 確認しながら対応を進める。

(委員) 移住のターゲットはどのような人か。

(事務局) 現在、町内の移住定住促進プロジェクトチームが作った素案について、17日に協議会委員に集まってもらう予定。素案の中でターゲットに触れており、職員の中でお金がありアクティブなシニア層だと来やすいのではという意見があったが、やはり町を持続させていくためには若い世代、子育て世代、年齢にすれば20代以上と40～50代の現役世代をターゲットにしている。

(委員) 提案であるが、町内で仕事していて町外から通勤している子育て世代を1つのターゲットにしてはどうか。生活体験モニターツアーに事業所を通じて参加を要請したらいいと思う。子育て世代がなぜ旭川等の町外から通勤するのかというと、子育てできる場所なのか、環境には適応できるのか、生活していけるのかななどいろいろな不安がある。町を知ってもらう利点もあるので、モニターツアーに参加していただけたらと思う。来るまでがハードルになっていても来てしまえば子どもを育てるにはいい環境だと思う。

独身も町外から通勤している人が結構いる。事業者とも連携をとって住宅の不安もあると思うので、そうした方が住める住宅を何軒が用意して情報提供できるようにすればいいと思う。

独身だと誰と交流していいのかわからないこともあるので、町の事業としては難しいとは思いますが、役場、商工会、農協等の若い人が中心となって、若い人が集まれる会ができるように動いてほしい。

子育て世代で一番困るのは買い物。子どものものは町内にほとんど売っていない。洋服や高価な文房具は町外でないと買えないので、町内で不足する部分をリサイクルなどで共有できたらいいと思う。

(事務局) 町外から通勤していることは把握している。町の魅力を知ってもらうということが不足していたと思う。子育ての負担軽減については、他の町より充実しているという意見もあるので情報発信をしていくと同時に、モニターツアー等も有効に活用していきたい。

住宅の物件情報については、充実以前に整備もされていない、物件もあるのかな

いのかわからない、物件が不足しているという状況を認識しており、移住定住の施策の中でも考えているところなので対応したい。来るまでが1つのハードルという話があり、その対策としては引っ越し費用を助成することも考えている。

子育て世代が買い物に困っているのでリサイクルという提言についてもあわせて考える。当然、移住定住計画も第10次総合計画とリンクするので計画の変更もある。変更の際には内容を提示するので確認して頂きたい。

若い人の集まる機会を作ることについては、婚活パーティーにつながる場合もあるし、単に集まる機会の場合もあるが、旭川信金と地域連携協定を来週、調印する予定で、その中で婚活パーティーの事業も組み込まれている。

(委員) 以前にいた富山県内の小さな村では、県で第1子から10万円の支給の事業をやっていて、さらにその村では第3子以降、100万円というのを県内で初めてやった。そうしたら爆発的に人口が増えた。何年以上定住という条件はあったが、参考にしてほしい。そこは住みたくないという村であったが、他からきて1回住むと出ていかなくなるということであった。

(事務局) 理事者との協議の中で、思い切ったことをやらないと来てもらうことは難しいという話もあった。この町は観光客が年間210万人という交流人口はたくさんある。これまで観光に特化した施策を進めてきていて、ようやく定住が重要という認識のもと始めたばかり。住宅が足りない、仕事がない、そういうところから足場を固めていきたい。

(委員) 上川高校の3年生男子で卒業して上川町の事業所に就職が決まって、ここに住んで将来的には両親を呼びたいという話をしている生徒がいた。その子は旭川から上川高校に通い、これから生きていくうえで素晴らしい町という話をしていた。そういう感じ方をしている子どもたちもいる。旭川からくる生徒を取り込むことも無いわけではない。前にいた町で転入したら1万円もらえるところがあった。町民で結婚したらお祝い金がもらえるところもある。お金を配ればいいわけではないが、いろいろなところで何らかの努力をしていることを無視するわけにはいかない。

(事務局) そうした生徒の期待を裏切らないように施策を行っていきたい。

(委員) 移住施策の中に遠距離通勤生活支援制度があるが、通勤費用を支援するのは今回が初めてか。ここまでしてくれるなら、JRが動かなくて上川高校の高校生を旭川まで迎えに行き連れてくる事業があったが、そのときに旭川の高校に行く高校生を乗せてほしい。

(事務局) 確かに上川高校に来る高校生に、JRが不通になったときにスクールバスで対応した。即答できないが検討する。

## 5 自然を生かした潤いのあるまちづくり

(事務局) 資料説明

(委員) p 1 2 1 のふれあいセンターはどれくらいの段階にあるのか。

(事務局) 今年、実施設計やっている。来年6月から建設が始まる予定。概略の平面図はできている。

(委員) それは町民へのヒアリングはあったのか。

(事務局) 老人クラブ、子育て支援センターなど関係者に基本設計時から意見を聞いた。

(委員) 子どもが遊べる場所はあるのか。

(事務局) あまり大きくはないがプレイルームはある。

(委員) 何年も前から子どもが冬でも遊べる場所がほしいと言っているが、そのことが改善されていない状況。それについてはどのように考えているか。

(事務局) 今回の建て替えではそこまでできていないが、福祉会館の隣に建設なので福祉会館の大ホールがある。そこは今でも使える。

(委員) 冬、どこに行ったらいいんだろという状況で、結局、かみんぐホームに集まっている。小さい子のいるお母さんの意見も取り入れて検討してほしい。そういうものを建てる時には、一部の団体に声をかけるもの大事だが、広報で広く意見を募集してほしい。

(委員) p 1 2 5 の木質バイオマスエネルギーの導入で、町の公共施設に入れるということか。

(事務局) 予定しているのは医療センターとこれから建て替えの「いきいき福祉センター」の2か所。今の福祉センターを増築して、そこがいきいき福祉センター。仮称でまだ名称は決まっていない。

(委員) これから新しい団地もたつと思うが、下川町では一の橋団地で暖房等の燃料は木質バイオマスで賄っている。これからそういう計画があるのであれば木質を検討してもらいたい。

(事務局) 検討の1つに入れて考えたい。

## 6 みんなで創り育てる協働のまちづくり

(事務局) 資料説明

(委員)

まちおこし戦隊カミレンジャーを代表して参加しており、大綱6について意見集約をお願いされたので、全員というわけにはいかなかったが取りまとめた。

p 1 2 9の男女共同参画について、こういう場への参加の機会を与えていただくのはありがたいが、1つ活動している人にいくつも誘いがいくと負担になる。午前中の会議は難しい。もちろん女性の意見も聞かなければならないが、女性の場合は子育てや家事など男性以上に負担が大きいと感じるところがある。町民と協働のまちづくりは工夫が必要。自営業者と会社勤務の人ではまた負担が違う。自営業の場合は手当が付く訳ではなく、若干、仕事が犠牲になっている。こういった影響の無い時間帯に会議をしていただくとか、配慮が必要という意見があった。

また、育児・介護に対する支援のところ、育児休業が明けたらどうなるというのがある。子どもが病気になったときなど親など困ったときに預けられるところが必要ではないかという意見があった。町内に両親がいればいいが町外から来ているお母さんが多いので頼れる人がいないという現状がある。

p 1 3 7の計画的な財政運営で、水、空気、気候、自然等、町の特色を活かした起業や新しいお店への支援が町の財政に貢献する、また、個人的には、取水源で最上流の水を取れるというのは、愛別以降にはないことなので、水を活用することをもう少し広げて町の活性化につなげてほしい。水道の利用ももう少し稼げるようなことを考えていいと思う。

これも個人の意見であるが、個人の能力を上げて稼げる必要がある。仕事を任せたいが任せられないということが雇用者の方から聞こえてきて、同じ人に仕事の誘いがあるというのが現状としてある。今いる一人一人の住民が仕事の能力を上げたり、おもてなしの気持ちを上げたりして、仕事内容の価値が上がり、町民の収入がアップすると財政運営にも役立つと思う。

(事務局)

男女共同参画に関して、いろいろな会議で男女を同じような割合で入れて幅広く意見を聞こうという趣旨で進めている。女性の場合は、家庭環境や子育てで負担が大きいので、会議の時間など配慮してほしいというのはもっともだと思うので、これから配慮していきたいし、こういったことを町全体で共有することも合わせて行っていきたい。

子どもが病気になったときに身近な人がここにいれば助けられるが、移住者などはいない。この町は共働きが多いこともあり、そうした人は特に預けられるところが無いと感じると思う。子どもが病気になったときに預けられるところがあるというのは精神的な安心になるので、そういった場所が必要だという認識である。具体的にどうするか検討する端緒にいますので、今後、意見を頂きながら進めていきたいと考えている。

- (事務局) 上川町は浄水場、処理場が2つあり珍しいところである。上水道の運営は財政的にも料金的にも、層雲峡もあってそんなに苦しくない。水道に関しては上に誰も住んでいない好条件にあり、層雲峡は黒岳から、町内は留辺蘂川から取水している。そんな中、直接、水道の水を活用することは難しいが、たとえば朝陽亭でおいしい水をPRしてもらったとか、大雪山の水を使ったラーメンとか、そういう地域性を謳いながら活用してもらえればと思う。
- (委員) 上水道の施設を新しくする中、人口減でお金を返していくことに不安も無くはない。少しでも収益が上がることを考えるといいのではないか。
- (事務局) 水道は企業会計でなかなか難しいところではある。水を直接に売るのは難しい。
- (事務局) 委員の意見の要旨をまとめると、町が稼げれば計画的な財政運営に資するということと思う。そうした観点からすると人材育成が必要、町民一人一人の能力向上について、個人では難しいので教育訓練を町で率先してやっていく必要があるのではと受け止めた。そうしたことで起業、新規商店の開店を支援して、雇用を拡大したり、確保したり、いい循環でできれば計画的な財政運営に資するし、地域活性化につながっていくという認識である。これも移住定住に関わり、商業、農業の後継者問題がある。一番にやらなければならないと思うのは、飲食店の後継者問題が待たないであり、町内外を問わず、事業承継をスムーズに進めていくということも移住定住の施策で考えている。
- (委員) こうした会議に出る人を常にストックして、いろいろな人に参加してほしい。負担がありすぎて窮屈にならないように、楽しくまちづくりができる関係性を築いてほしい。
- (事務局) 同じ人がいろいろな会議に出るのではなく、人材ストックということでは、どういった人がいるのか日頃からアンテナを張りめぐらせて、しっかりやっていきたい。
- (委員) 安足間に抜けるところに湧水があり、皆が水を汲みに来ているという話がある。すごい量が出ているが、その水を保健所に持って行って保証してもらいPRできないか。埼玉の姪は水を買っており、その水を送ったことがあるが、すごくおいしいと言っている。たとえばふるさと納税の返礼品に利用できればいいし、間道の整備も必要である。
- (事務局) あそこは隣町。保健所の検査はしたと聞いたことがある。
- (委員) 国際交流のことが書いてあるが、日本人で英語を話せる町職員を養成するとか採用するとかいう考えはないか。また、広域行政について広域連合で上川町はどう



いう役割を担っているのか。消防に関して旭川市と一緒にになったということで、時間がかかるとか悪い話しか聞かないが、事務経費が減る以外に何かいいことはあったのか。

(事務局) カナダ人のチャールズさんを平成 27 年から町職員として採用している。それまで A L T で、日本語が堪能で人間的にもすばらしいので町長が認めて採用した。ますます日本語が上達し、町民ととてもいい関係性を築いている。仕事の能力も向上しており当面はチャールズさんにがんばっていただき、日本人の英語を話せる方の採用は考えていない。

(委員) チャールズさんがいることは大きいですが、外国語対応が必要な場面が増えていることと、観光協会やビジターセンターで英語を話せるスタッフがなくて困っているという話を聞いた。これだけ外国人が来る町で、もう少し外国語を話せる人がいてもおかしくない。英語を話せる人材は増えており、職員の採用の条件にしてもいいと思った。

(事務局) 外国人対応が増えているという認識はあるが、どう対応していくかは不明確な状況なので、その辺を明確にして検討していきたい。

(事務局) 消防署長の私自身が旭川から来ている。今までと比較するのはなかなか難しいが、消防車両の増強の面では、タンク車 1 台、レスキュー隊の救助工作車が 1 台が、通報があれば燃えていようとまいと旭川から向かわせる体制になっている。層雲峡の中高層火災発生の場合はそれにプラス 40m 級の梯子車が付加されて出動する。輻輳災害に対しても、旭川市ですべての消防車両を補完するという体制が敷かれる、旭川市には 10 数台の消防車両、13 台の救急車両があるので、上川町内で交通事故を含めた軽度な災害が発生してもそれをすぐ補完する体制で、旭川から消防車、救急車が出動する。旭川からの時間的ロスはあるが、そのような体制になっている。

(委員) 消防団を 40 年務めている。2 年前から旭川、鷹栖と広域連合となりどうか変わったかということでは、今までは上川町だけということで、層雲峡で大火災があったら間に合わない、そういう対応はできないだろうと思っていた。車両も用途にあったものが揃っていないため不安を感じていたが、旭川にすべて揃っているので気持ちは楽になったし、第 1 次対応として上川町消防団が対応し、その後に旭川から来るのは心強く、安全安心には良かったという思いである。

(事務局) し尿の関係で、上川町の衛生センターが老朽化している。平成 23 年から旭川市とその周辺で定住自立圏協定を結んでおり、その中で旭川市の環境センターに委託して、上川町のし尿を運搬して処理してもらっている。ゴミの関係は、上川、愛別、比布、当麻の 4 町で負担金を出し合って塵芥処理組合を運営しており、愛

別のセンターで処理をしている。

(委員) 上川町は広域の中でどういう役割を担っているのか。そういうものがないと立場的に弱いのではないか。

(事務局) 4町の中に入れてもらって負担金を払っている。愛別が事務局を持っており、塵芥処理組合の中で上川町の役割はとくにはない。

(2)その他

(事務局) 次回策定委員会の日程を確認 11月20日(月) 18時30分

以上